北海学園大学附属図書館報

図書館だより

1987．5．15

第9巻第1号

通巻101号

Bulletin of the Hokkai Gakuen University Library

ロード・ウオッチング

画と文・國田祐作

早春キャンパス（新図書館裏門）

スケッチブックを抱えて歩いている人は，はたから見るとのんびりしているようだが，ご当人は「どこか絵になりそうな，オモシロイところはないか」となかなか足に暇なき思いをしているのだ。そして見ることに忙しい。私は学園の周辺をスケッチして歩いているのだが，たとえば個人タクシーの車庫の前で足を止めたとする。すると定休日を書いた木札が目に入ってくる。四と九の付く日を定休日にしているのである。月に六日，その日を休む。職業柄，エンギをかついでのことだろうが，案外，翌日に備えての合理的な休みかも知れないのだ。むかしから，五（ご）・十日（とうび）というのはお金が動きまわる忙しい日である。給料も出たりするから，タクシーのがき入れの日にあたるわけだ。

その近くにポプラの木が三，四本立っていて，秋には逆光に葉ウラを輝かせるのだが，これがどうやっても根元を見せてくれない。まわりに家が建てこんできて，木立ちをすっかり取り囲んでしまったのだ。出口なしの木である。玄関から入りこんで裏口を破らなければそれは見えない仕組みになっている。しかし，私は掛け矢を持って歩く度胸はない。近くでスケッチをしていたら，戸口が開いてオバサンに「アンタ，何屋さん？」と咎められたことがある。閉じこめられた山椒魚のようなポプラの梢を見るたびに，いつもモドカシク，痒いような気持になる。

雪が融け出すと，地面から色々なものが姿を現わす。自転車がまるまる一台出てくる。しかし，こんなのは序の口で，これも学園近く，水車町のあたりだが，クルマが三台つながって雪の下から出てきたのには驚いた。なかを覗くと，道路地図やタバコの空袋などが座席に散らばってナマナマしい。私は冬の札幌にまだウトいものだが，クルマなどの一種の貯蔵法？なのだろうか。

（くにた・ゆうさく　教養部教授・芸術論）

新図書館開館にあたって

図書館長　橋　本　雄　一

去る3月21日に行なわれた昭和61年度卒業式の卒業生代表の答辞のなかに「卒業迄に新図書館を一度見たかった」という言葉があり，私の記憶に強く残っています。新図書館の建設計画は61年度卒業生が入学した4年前よりも更に前から始められ，その構想はしばしば変更を加えられながらも「北海学園大学新聞」や「図書館だより」などで知らされてきたので，学生諸君の新図書館に対する関心は大きかったと思いますが，今年の卒業生は開館を間近かに控えながら在学中に遂に一度もその中に足を踏み入れないままに卒業することになったことは残念なことだったと思います。

卒業式当日はちょうど旧館から新館への移転作業期間中で，4月4日に移転が終り，4月6日に開館を迎えました。

新図書館を含む建物には図書館の他に6階に国際会議場，5階に研究室，4階に法学研究室や資料室等が含まれ，図書館部分は地下1階から地上4階までで，5階に将来書庫を増設するためのスペースが確保してあります。その概要は「図書館だより」の前号で紹介してあります。

国際会議場を含む建物全体の披露祝賀式は今夏に予定されているようですが，4月6日午前9時半に新図書館の開館式を田中学長と新図書館の立案からずっと関係した小野元館長，吉川前館長を迎えてささやかに行ないました。

館内は書架，机，椅子など木を基調とした落着いた雰囲気を感じさせるもので，広いスペースと共に，ゆったりとした気持で読書できると思います。

新図書館に向けて既存の図書の充実と新しい特色作りに図書委員会は知恵をしぼり，学生図書費の増額と北海道関係資料の収集が実現することになりました。

主に学生用の2階3階の開架部分は，2階が法律・経済関係図書，3階が教養関係と大別されていますが，開架冊数は合計約3万冊で，収容可能冊数5万冊の約60％で，残りの空きスペース2万冊分は5ヶ年計画で充実させてゆくことになりました。開架図書の充実は特に学生にとり図書館の魅力の大きな部分を占めると思われますが，講義に関係する図書の他に，できるだけ時代に即応した主要な図書は集めてゆくつもりです。図書以外の設備としては3階にグループ読書室2室があり，他にAVコーナー（視聴覚機器による自習コーナー）には将来機器が入る予定です。また1階の自由閲覧室には各種新聞が配置されますが，この部屋の充実については今後工夫をこらす予定です。

閉架書庫の図書・雑誌等の配置については既に各先生方にお知らせしてある通りですが，和洋書を別置し，更に雑誌も和洋を別置した他に一般雑誌と学術雑誌，紀要を別置しましたので，今迄よりも利用に便利になったと思います。新図書館全体の収容可能冊数は約83万冊です。

以上新図書館についての概要をお知らせしましたが，「大学が良い大学かどうかはその図書館を見れば分かる」という開館式での田中学長の言葉を肝に銘じて館員一同気持を新たに今後の充実に努力してゆくつもりですので一層の御協力をお願い致します。

（はしもと・ゆういち　教養部教授）

『今思うこと』・・・S君へ

図書館事務長　斎　藤　和　夫

長年住み慣れた学生部からこの4月1日付で図書館勤務となりました。

思えば昭和37年春，北海学園に勤務してからの3年間，当時の図書館に配属となりその後，昭和40年の暮，学園紛争が全国的に拡がりつつあった年に学生部に出て以来でありますから「古巣」に戻ってきたといえるかもしれません。

25年も前の本学の図書館は君も知っての通り今の就職部事務室のある2階建の建物の1階部分にありました。2階には開発研究所があって上下階の背の高い書棚には所狭しと蔵書が配架されておりました。

その後，図書の数も増加し書庫ははち切れんばかりとなり書棚を増設，渡廊下で通ずるプレハブの仮事務室で仕事をしていたことも今では懐かしい思い出であります。

大学は年々学生の数も教職員数も増え，他の施設とともに昭和43年には本格的な図書館が完成しました。

一方，本学でも学園紛争の洗礼を受けました。

経済も社会も戦後の混乱から一応の立ちなおりをみせはじめていた頃のことでありますが，大人も学生たちも急激に変化する社会の変化に大きな戸惑いを感じておりました。数年吹荒れた嵐に教職員も学生もその対応に疲弊していた当時のことがつい先程のことのように思い出されます。

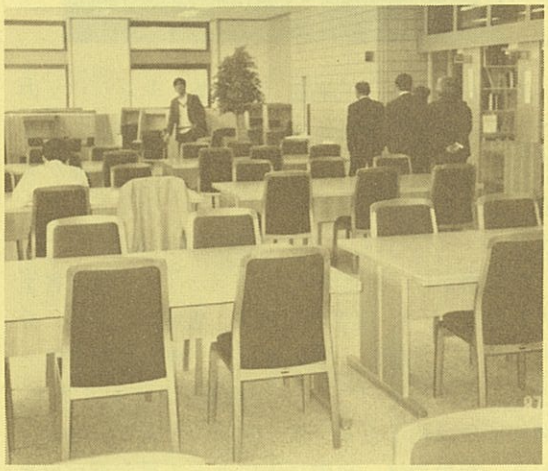
そしてまた図書館は，教育研究に計りしれない大きな役割を果し，前庭でくり広げられる学園の20年間の歴史を静かに見つめながら今年4月，念願かなって完成した新図書館にその座を譲りました。

学生部の仕事が日々，動的であったというならば，図書館は地道な中で極めて静的であったといえるのかもしれません。

余りにも大きな仕事の変化に戸惑いを感じながらも，「情報」についてこんなことを考えております。

テレビ放送は，一億総白痴時代を創るといったのは有名な評論家の言葉。その一方で別の評論家は，国民の文化向上のにない手である，といって久しくなります。

一見矛盾することのようでもありますが双方にそれなりの言い分がないわけはなさそうであります。つい先頃のテレビドラマで，子供が盗みをして補導されている場面がありました。その手口が余りにも巧妙であったためか誰に教わったのかと詰問されております。子供は即座に「みんなテレビが教えてくれらあ」。



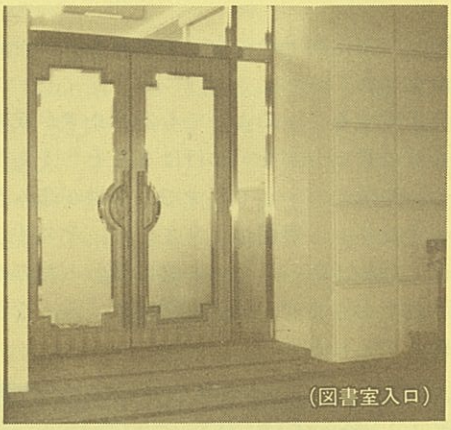
国内外の刻々のニュース。今では放送衛星を介し太平洋を隔てた外国の動静をも我々は居ながらにして知ることができます。実感放送などという名人芸で実況放送に国民が湧いたのも，すでに昔の話になってしまいました。

一方的に飛込んでくる情報は善悪混在で非常に大きな影響力があります。それにまた，更にその知識を系統だてたり，堀り下げて知ろうとしても電波情報では答えてはくれないという弱点をもっております。

短答の思考力しか育たないといわれる若い学生諸君にとって新装なった図書館が，自分の力で情報を手にすることのできる「知識の宝庫」であってほしいと思います。

（さいとう・かずお）

工学部新図書室のご案内


（図書室入口）

昨年６月より，工学部（南26条）キャンパス内で，電子情報工学科新設に伴う校舎の建設工事が行われておりましたが，この３月末に２号館が完成，１階を図書室が使用することになりました。現在，オープンにむけての準備作業が進行中です。

新図書室は，延面積662平方メートル，現図書室の2.7倍となり，座席数は98席，書庫は，２層に分れており，１層は，開架書庫，２層は閉架書庫となり，スタック・ランナーが設置されております。開架部分は約１万６千冊を配架の予定で，従来どおり，利用者は，自由に手にとって見る事が出来ます。室内は，茶色系統で統一され，閲覧机をはじめとする備品類は，あたたかな雰囲気をかもし出すようにと，すべて木製品を使用し，床は，静寂を保つよう，カーペットを敷きつめるなど，諸設備に充実をはかり，利用者に，より快適な環境の中で学習，研究に専念できるよう配慮されております。

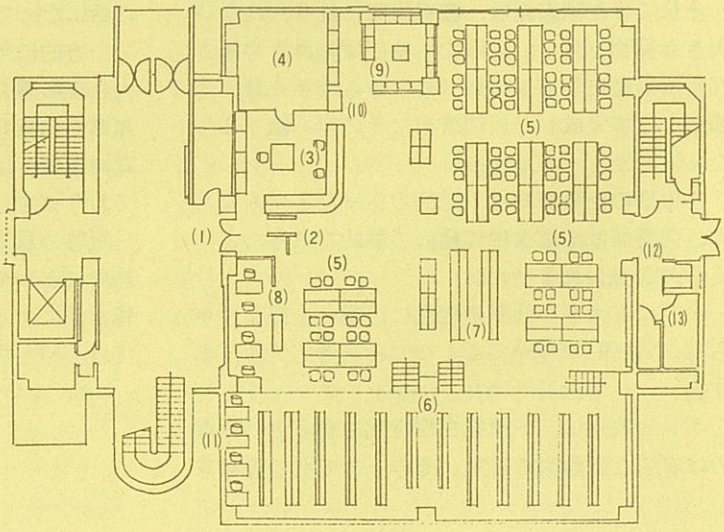
このほか，ＡＶコーナー（４席），ブラウジングコーナー（15席），コピー・コーナー（複写機１台）の諸施設があり，書庫内には，キャレル（個人用机，４席）が設けられています。

開館は今のところ，５月18日の予定ですが，開館後は，学習・研究の場として，大いにご活用下さい。

（閲覧座席）

新図書室案内図

(1) 図書室出入口
(2) Ｂ．Ｄ．Ｓ．
(3) 閲覧カウンター
(4) 事務室
(5) 閲覧座席
(6) 書庫（１層：開架書庫，２層：閉架書庫）
(7) 参考図書コーナー
(8) ＡＶコーナー
(9) ブラウジング・コーナー
(10) コピー・コーナー
(11) キャレル
(12) 給湯室
(13) 化粧室



２層目は閉架書庫（集密書架）となっている。

電子情報工学と46年

—サイバネテクスとの出会い—

三　浦　良　一

私が電気科の学生として，始めて電子工学の講義を受けたのは，今から数えて46年前のことでした。その頃は電気科のカリキュラムの中の一科目で，大部分が真空管とその回路に関するものでした。もちろん計算機も情報工学もまだ姿を見せておりません。ただ気体中の自由電子と気体分子との相互作用を扱う気中放電は電気絶縁に関連して電気工学の中の重要な分野を占めており，電子工学的とも言えるものでして，私の卒業論文は気中放電プラズマによるミリ波の発生であり，その後も十数年に亘る研究テーマが気中放電でしたから，電子工学との交わりが46年前にさかのぼると言っても良いと思うのです。

それから戦時中の一時機に，レーダの操作に関与して，電子工学の新しい展開を予感しながらも，真空管の信頼性の不足（故障の多いこと）になやまされた記憶もあります。ついでに申しますと，真空管に代わる信頼性の高い固体電子デバイスに対する強い要望がトランジスタを生む原動力であったともいえますし，トランジスタの発明が飛躍的に電子工学を発展させたともいえるのです。

学会についてふれますと，電気通信学会の前身である電信電話学会が創立されて今年で70年になります。（電気学会は108年）その頃は電気通信と言えば電信電話であり，真空管はこの分野の重要なデバイスであったのです。それから20年で電気通信学会となり，さらに20年して事業の中に電子応用が追加され，それから10年後に電子通信学会となりました。電子工学の発展を示すものと思われます。それからさらに20年，創立70年にして電子情報通信学会と改まりました。

話をもどしましょう。ウィーナーが「サイバネテクス」を世に問うたのは1948年で，丁度最初のトランジスタが発表された年でした。（池原・弥永・室賀訳，サイバネティックス—動物と機械における制御と通信—岩波書店　1957）私がこの本から受けた影響は大変に大きかったと思います。そうは言っても，私とサイバネテクスとの出会いは極めて受動的なものでした。当時低温科学研究所におられた今堀教授がこの本に注目され，私ども若い研究者十人ほどを集めて論講というよりほどんど先生が読んで下さいました。皆さんには信じ難いかも知れませんが，肝じんの本は一冊しかなく，今堀研究室の方が原紙にタイプし，これをザラ紙に一枚づつ謄写印刷をしてくれたものがテキストでした。昭和24年頃はまだそういう時代だったのです。

サイバネテクスの志向するところを割り切って申しますと，目的論的，確率論的，モデル論的なもので，当然に学際的となり，フィードバック，認知，適応，学習，人工知能，さらには自己組織化，進化的発展などにまで考察が進むことになるのです。そしてまた，システムとか情報とかの概念が明確になり，それぞれの科学・工学が成長して参りました。

話が急に難かしくなりましたが，私が，昭和34年に北大工学部に新設された自動制御工学講座の担任教授となり，制御，システム，情報の分野に進むようになった潜在的な要因が，それに先立つ10年前のサイバネテクスとの出会いにあったのでないかとひそかに感じているところなのです。そして今になって本学の電子情報工学科の計画に参加させて頂くことになった遠因もまたここに求められるのかも知れません。

サイバネテクスは新しい思想をもった学問ですので，狭い科学や工学に限定されない影響も与えたように思います。たとえば人間観，社会観，宇宙観にまで及ぶものでしょう。少なからず専門的な事柄に偏ったようですので，最後に教養的な意味もあると思われる本を二冊ばかり御紹介して拙文を終ります。

1）サイバネティックスの世界—新しいものの見方・考え方—L・ラストルギン，P・グラーヴェ著，木下高一郎訳，講談社，1980（ブルーバックスB362）原著は1975.

2）ホロン革命，A・ケストラー著，田中三彦・吉岡佳子訳，工作舎，1983．原著は1978.

3）自己組織化する宇宙—自然・生命・社会の創発的パラダイム—エリッヒ・ヤンツ著，芹沢高志・内田美恵訳，工作舎，1986.9．原著は1979

（みうら・りょういち　工学部教授）

アメリカ図書館事情

小　林　健　一

私の1985年９月―86年10月のアメリカ滞在で触れえた当地の図書館事情を紹介したい。

研究資料をもとめて10ケ所位の図書館を訪れたが，最も長く滞在・利用したミシガン州立大（ＭＳＵ）とテネシー大学（ＵＴ）の図書館を中心に訪れた図書館にほぼ共通する特徴をまとめてみると、①その規模が実に巨大かつ蔵書数が多い，②誰でも（子供づれの市民でも）何の手続きもなく入館でき，開架式によってどの部屋にでも入れる，③各階にコピー機が設置されコインもしくはカウンター式で自由にコピーできる，④参考業務の文献とスタッフが充実しており，その図書館にない文献でも２～３週間で他の図書館より取寄せてくれる，⑤各州の州立大学の２つには，Document Sectionがあり，政府・政府関連機関の刊行物が大量に蔵書されている，⑥各階にキャレルと呼ばれる研究用の小部屋ないし勉強机がいくつもあり，利用する図書を何冊か手元に置くことができること，⑦夜おそく（MSUでは午後11時）まで開館していること，などである。

さらに，いくつかの大学では，たとえばMSUでは，実に簡単な操作でコンピューターで検索（著者名，図書名などより）できた。ここでは，コピー機が30台以上も設置されて文献のコピーに何の支障もなく，学生たちが討論しながら勉強できる小部屋がいくつもあり，開かれた図書館，利用者のための図書館という感じがした。同大学では最上階に利用者のための軽食ホールがあり，コピーに疲れた時私はよくそこを利用し休息をとった。

MSUでは研究室がもらえたので利用しなかったが，UTでは研究室がもらえなかったのでキャレルの利用登録をして活用した。机と本棚だけの狭い部屋であったが，資料収集には大いに役立った。UTの図書館はMSUのそれより全体的にみて劣り，キャレルの数も20位しかなかったようだが，現在建設中の新図書館は200位キャレルを備えるとのことであった。

一般的に言うと，やはり伝統をもち規模の大きな大学ほどその図書館が充実しているようである。たとえば，南部経済史に関する文献でもUTやケンタッキー大学（UK）よりMSUの方が多かったように思う。もちろんローカルな雑誌などではUT，UKが豊富で訪れたかいがあったが，一般書ではMSUの方が多かった。おそらく，歴史と規模（予算）によるのであろう。比較的有名なジョージタウン大学（GT，ワシントンD.C.）は実を言ってがっかりした図書館のひとつである。有名大学が必ずしも優れた図書館をもっているとは限らない。これはどうしてなのか私にはよくわからないが，ひとつには規模がそれほど大きくないということだろう。あるアメリカ人の友人に質問してみたところ，GTのような都会の大学では競争大学が多く，一分野に特化しているとのことであった。GTは他の分野の蔵書が多いのかもしれない。

議会図書館（LC）は蔵書2,200万冊という実にすばらしいものであった。一般の単行本や雑誌、政府刊行物についてはほとんど完璧にそろっていた。ただし，開架式ではないので，検索後請求カードを出すと約１時間待たされる。自分の座席まで持ってきてくれるので，読書やコピーをしていても（日本の国会図書館のように待っていなくとも）手に入るのはありがたかった。ただし，あまりにも規模が大きいせいか，新着の本を利用するまでにかなりの時間がかかるようである。

こうしてみると，アメリカの図書館と日本のそれは，天国と地獄ほどの差があるように思われる。最初に述べた①―⑦をすべてを満せとは思わないが，せめて②の公開性だけはアメリカに見習うべきであろう。これは磁気式になれば，それだけで出来ることなのだから。また，④の参考業務の充実も予算も歴史の蓄積もそれほど必要とせず，決意さえすればすぐ実現することなのだから。

夜おそくまで，多くの学生たちが行きかい話し声の聞えるMSU，UTなどの図書館の光景がいつも目に浮ぶ。

（こばやし・けんいち　経済学部助教授）

自著を語る―④

『日本帝国主義と綿業』

ミネルヴァ書房（1987）

西　川　博　史

最近，私は『日本帝国主義と綿業』（ミネルヴァ書房）を著わし，第二次大戦に至るまでの日本資本主義の発展過程を検討した。拙著の意図は，この期に日本がいかなる問題を抱え込み，それをどのように解決しようとしたかを経済的基礎過程にそくして解明することにあった。

満州事変（1931年９月18日）を契機に，日本は日中戦争・太平洋戦争へと15年間にわたる戦争への道を歩みはじめた。この満州事変を遡る10年前の21年11月、ワシントンで国際会議が開らかれ，第一次大戦後の東アジアをめぐる国際秩序が形成された。日・英・米をはじめとする帝国主義列強は，できるかぎり武力を行使せずに中国を共同の経済的市場にしておくことを約束した。国際協調を基礎とする体制のもとで軍縮条約も調印された。

日本では，幣原外交という対中柔軟外交が展開され，それまでの軍事的強権的色彩を帯びた対中政策は後景に退き，経済的侵略を主体とするものに転換していった。上海・青島に設立された日本の紡績業（在華紡）がそうした転換を代表していた。

当時の中国経済の支柱をなした民族産業は紡績業（民族紡）であった。在華紡の活動が強化されると民族紡は危機に瀕し，そのしわよせを労働者に転嫁した。在華紡も劣悪な条件で中国人労働者を酷使した。労働者はそれにストライキをもって対抗した。こうした動きは，ついに5･30事件，省港罷工となって爆発し，それに呼応する反帝国主義民族運動が大きく燃え上った。帝国主義列強との一切の経済関係を拒絶する経済絶交運動という民族運動が全中国を席捲し，それが中国の政治的統一を実現しようとする国民革命の底流となって北伐という新たな政治動向を生みだした。国際協調のもとに経済的侵略によって列強相互の勢力圏を維持しようとしたワシントン会議の企図は打ち破られ，列強は独自にしかも民族運動に軍事的強権をもって臨むことで自己の勢力圏を確保しようとした。

他方，日本紡績業は国内での合理化をいっそうおしすすめ，低廉な綿布を世界市場へと売込んでいった。特に英領インドへの輸出が激増し，さらにアフリカ・中近東地方へと新市場開拓が実現されていった。インド市場への日本紡績業の進出は，インド紡績業との競合にとどまらず，イギリス紡績業との対立をももたらした。インド独立をめぐる民族運動の高揚を背景に，日・英・印の紡績業は熾烈な競争を展開した。インド紡績業は，低廉な日本綿製品にダンピング非難を浴びせ，ついにイギリスと共同して，日本品に高率関税を課してその締め出しを図った。その過程は，イギリスがイギリス帝国経済圏を形成していく一環として実現され，その結果，オタワ会議によるイギリス帝国圏経済ブロックを成立させた。それは，世界経済ブロック化の一大展開期を画し，列強それぞれにブロック経済圏の形成を促進していった。日本品は世界市場いたるところで関税障壁にぶつかり，日本自らもブロック経済圏形成の必要に迫られた。こうした中，国際的緊張はいっきに高まっていった。

中国民族運動の高揚とそれに加速された中国の新たな統一化の動き，列強協調体制のヒビ割れ，そして世界経済ブロック化へと拍車をかけられた国際的緊張の高まりは，日本に強大な軍事力の定着を要請していった。日本は民族運動の激化，国際的対立緊張に軍事力で対応しようとしたのである。国家的規模での軍需生産体制の本格的展開と体制再編が開始され，軍需に依存する重化学工業を主体とした産業構造への飛躍的移行が実現された。戦争遂行のための国家統制が政治・経済・社会のあらゆる面で強化され，勢力圏確保・拡大を「正義」とする軍事的侵略が続けられていった。日本の場合，軍事力強化のための重化学工業の展開に必要な原材料は，戦争によって得るしかなく，そのために軍事力のいっそうの強化を必要とした。それは，戦争と侵略の泥沼にはまり込んでゆく道でしかなかった。

（にしかわ・ひろし　経済学部教授）

新着図書（選）－教養

読む書く話す大事典　主婦と生活社／**父母と教師のための子育て読書をどうすすめるか**　石上正夫著　青木書店／**わたしの青春ノート**　NHK（日本放送協会）学校教育部番組制作班編　教育史料出版会／**絵のパラドクスと言葉のパラドクス**　吉田夏彦著　岩波書店／**続学問の曲り角**　河野与一著　岩波書店／**日本文化の基調**　―「道」の観念―　大多和明彦〔ほか〕著　文化書房博文社／**性の歴史1，2**　ミッシェル・フーコー〔著〕　新潮社／**山伏まんだら**　―求菩提出修験遺跡にみる―　重松敏美著　藤田晴一写真　日本放送出版協会／**宗教改革著作集12**　教文館／**色と形の深層心理**　岩井寛著　日本放送出版協会／**自己決定の心理学**　自発的動機づけの鍵概念をめぐって　E.L.デシ著　誠信書房／**ヒトの行動とコミュニケーション**　―心理生物学的アプローチ―　荘厳舜哉著　福村出版／**児童心理学**　三宅和夫，宮本実編著第3版　川島書店／**黙示録2025年**　―青少年アパシーは戦慄のサイン―　稲村博著　朝日出版社／**「法隆寺日記」をひらく**　―廃仏毀釈から100年―　高田良信著　日本放送出版協会／**欽定英訳聖書**　―文献学的・書誌学的解説―　寺沢芳雄著　翻刻版　研究社／**オリエント古代文明の源流**　増田精一著　六興出版／**歴史をなぜ学ぶか**　土井正興著　青木書店／**古代東国物語**　―荒ぶる神々の系譜―　永岡治著／**さっぽろ文庫38**　札幌の樹々　札幌市教育委員会編　札幌 北海道新聞社／**歴史の見方考え方**　いたずら博士の科学教室 3　板倉聖宣著　仮説社／**東京空間1868―1930　1**　小木新造〔ほか〕編　筑摩書房／**日本の古代遺跡　27**　大阪　保育社／**中世の都市と民衆**　林屋辰三郎〔ほか〕著　新人物往来社／**東南アジアを知る事典**　石井米雄〔ほか〕監修　平凡社／**朝鮮を知る事典**　伊藤亜人〔ほか〕監修　平凡社／**図説〔英国史〕**　石川敏男訳著／**ポーランド史1，2**　S.キェニェーヴィチ編　加藤一夫　水島孝生訳　恒文社／**現代アフリカの悩み**　小倉充夫著　日本放送出版協会／**アメリカハンドブック**　佐伯彰一〔ほか〕編　三省堂／**収奪された大地**　―ラテンアメリカ五百年―　E.ガレアーノ著　新評論／**女たちの肖像**　友と出会う航海　中村輝子著　京都　人文書院／**回想河野与一・多麻**「河野先生の思い出」刊行会編／**花を飾ってくださるのなら**　―奈々十五歳の遺書―　尾山奈々著，保坂展人編　講談社／**河上肇―人と思想―**　杉原四郎，一海知義著　新評論／**愛といのちの日記**　―アンネの時代に散った少女たち―　早乙女勝元著　小学館／**歩く見る札幌1986―1987**　札幌市経済局観光部監修　札幌　北海道アート社／**大黄河　3**　日本放送出版協会／**都市ヴェネツィア　歴史紀行**　F.ブローデル著　クイーリチ撮影　岩波書店／**旅の断章**　中村光夫著　筑摩書房／**アラスカ　光と風**　星野道夫著　六興出版／**世界探検地図**　大航海時代から極地探検まで　R.A.スケルトン著　原書房／**変わる中国，変わらぬ中国**　武吉次朗著　東方書店／**チーズバーガーズ**　The best of Bob Greene　B.グリーン著　文藝春秋／**原色図典日本美術史年表**　太田博太郎〔ほか〕監修　集英社／**中国美術史**　日本美術の源流　小杉一雄著　南雲堂／**世紀末の美学**　河村錠一郎著　研究社出版／**現代美術論**　―リアリズムの探求―　松谷彊著　新日本出版社／**絵画の記号学**　―エクリチュールパンチュール―　L.ラマン著　岩波／**北斎の絵手本　5**　葛飾北斎画　永田生慈監修　岩崎美術社／**軍艦島**　―棄てられた島の風景―　雑賀雄二写真　洲之内徹文　新潮社／**色とつやの日本文化**　戸井田道三著　筑摩書房／**ラインのほとり**　旅と音楽　小塩節著　音楽之友社／**音楽の365日　上，下**　三善清達編　音楽之友社／**バッハの旅**　田中学而写真　樋口隆一文　音楽之友社／**モーツァルト巡礼**　一八二九年ノヴェロ夫妻の旅日記　N.マリニャーノ，R.ヒューズ編　秀文インターナショナル／**ある映画の物語**　―F.トリュフォー著　草思社／**こんな翻訳に誰がした**　別宮貞徳著　文芸春秋／**英語音声学入門**　松坂ヒロシ著　研究社出版／**ソニーのミスター・アメリカン1～3**　ソニー・ランゲージ　ラボラトリー著　学生社／**英語語彙の歴史と構造**　M.シェーラー著　大泉昭夫訳　南雲堂／**英字新聞・イディオム倍増法**　V.ライリー，F.オコーナー著　朝日イブニングニュース社編

新着図書(選)－経済

社会科学の現在　山之内靖著　未来社／**文化としての経済**　文化人類学からの接近　端信行著　ダイヤモンド社／**社会主義経済論**　大崎平八郎編　有斐閣／**現代経済問題の考え方**　鈴木多加史著　ぎょうせい／**テキストブック経済統計論**　三潴信邦，関彌三郎編　有斐閣／**社会主義世界経済論**　建林隆喜著　京都法律文化社／**競争と規制**　―現代の産業組織―　上野裕也著　東洋経済新報社／**ヴェブレンとミッチェル**　佐々木晃編著　京都　ミネルヴァ書房／**入門現代の経済社会**　日本と世界の明日はどうなる　森岡孝二〔ほか〕編　京都　昭和堂／**家事労働と資本主義**　B.ドゥーデン，C.v.ヴェールホーフ著　岩波書店／**日本はこう変わる**　―デフレ時代の開幕と経営戦略―　長谷川慶太郎著　徳間書店／**JAPANを読む**　―ビジネス・ニッポンの誤解―　米国ジャーナリスト懇話会編　経済界／**住友商事の研究**　ベスト・ワンの秘密　梅津和郎著　京都　晃洋書房／**BASICによる予測入門**　本多正久著　共立出版／**国際金融取引2法務編**　沢木敬郎〔ほか〕著　有斐閣／**ビジネスグラフィックスへの招待**　上山義尚著　共立出版／**企業内の意思決定**　だれが影響力を持っているか　石川晃弘，犬塚先編著　有斐閣／**金融新時代の読み方**　自由化・国際化の金融経済学　阿達哲雄著　ぎょうせい／**多国籍銀行とドル体制**　国際金融不安の構図　関下稔，奥田宏司編　有斐閣／**わが国の金融制度**　日本銀行金融研究所編／**エレクトロマネー**　金融サービス変革の構図　黒田巌〔ほか〕著　有斐閣／**アメリカ駐在員のための金融常識**　辻輝彦著　有斐閣／**日本の財政政策**　―経済的政治論からの批判と提言―　大川政三著　有斐閣／**コミュニティ心理学**　地域臨床の理論と実践　山本和郎著　東京大学出版会／**都市圏多核化の展開**　大阪市立大学経済研究所〔ほか〕編　東京大学出版会／**インドの共産主義と民族主義**　―M.N.ローイとコミンテルン―　J.P.ヘイスコックス著　岩波書店／**被保険者のための社会保険の基礎知識**　檜山忠利編　東栄堂／**セミナー労働時間法の焦点**　菅野和夫〔ほか〕著　有斐閣／**労使関係法**　光岡正博著　京都法律文化社／**スターリン体制下の労働者階級**―ソヴエト労働者の構成と状態・1929―1933年―塩川伸明著　東大出版会／**システム思考入門**　飯尾要著　日本評論社／**算法通論**　森口繁一，伊理正夫編　第2版　東京大学出版会／**カテゴリカルデータのモデル分析**　坂元慶行著　共立出版／**協調型計算システム**　分散型ソフトウェアの技法と道具立て　R.E.フィルマン，D.P.フリードマン共著　マグロウヒルブック／**人工知能**その限界と挑戦　G.L.サイモンズ著　近代科学社／**dBASE Ⅲ入門**　E.ジョーンズ著　マグロウヒルブック／**LISPによる人工知能の基礎技法**　S.C.シャピロ著　共立出版／**AIと哲学**　英仏共同コロキウムの記録　S.トーランス編　産業図書／**MS-DOS便利帖**　戸内順一著　誠文堂新光社／**日本のコンピュータの歴史**　情報処理学会歴史特別委員会編／**ノンプロテクト＆バックアップ**　PC-8801，9801シリーズによる　Papwss，第三帝国編　EI企画(発売：井上書院)／**BASICで学ぶPROLOGシステム**―言語と構造の理解のために―　市川新著　啓学出版／**文科系のためのFORTRANプログラミング入門**　菊池光昭編　本多正久〔ほか〕共著　近代科学社／**Fortran 77**　応用ソフトウェア作成技法　小国力著　丸善／**ソフトウェアの製造**　石井康雄編　日科技連／**パーソナルコンピュータ操作法とプログラミングの基礎**　大井尚一〔ほか〕共著　東京電機大学出版局／**はぜめて学ぶCOBOL**　市川公士，藤森洋志著　ナツメ社／**よくわかるワープロ**　―日商検定受験用―　鈴木忍著　改訂版　税務経理協会／**らくらくワープロ（パソコン）操作法JET-8801A編**　―Ver.1.10/MR専用版対応―　技術評論社編集部編／**はぜめて使うVJE-α＋ATOK4**　柿園昭俊著　技術評論社／**なるほど!!わかる!!**　新・一太郎　情報教育グループ編　森北出版／**先端技術と産業体制**　選信晴　濱田博男編　東大出版会

訂正

前号の巻頭論文中，執筆者，渡辺昭夫先生の肩書，教養部「教授」は同「助教授」の誤りでした。お詫びして訂正します。

新着図書(選)－工学

複合材料の強度解析と設計入門 S. W. Tsai, H. T. Hahn著 日刊工業新聞社／**応用解析BASIC** M.J.アイルモンガー著 啓学出版／**中世の職人 1，2** J.ハーヴェー著 原書房／**TQCにおける問題解決法** 日科技連問題解決研究部会編 日科技連出版社／**FAと産業用ロボット** 中西康二著 産業図書／**科学技術情報ハンドブック** 日本科学技術情報センター編 日本科学技術情報センター／**新体系土木工学 80** 海岸・港湾調査法 土木学会編 技報堂／**斜面安定工法** ―指針と解説― 日本材料学会土質安定材料委員会編新稿 鹿島出版会／**レオンハルトのコンクリート講座 1** 鉄筋コンクリートの設計 F.レオンハルト著 鹿島出版会／**絵とカラー写真で理解する岩盤力学入門** 三木幸蔵著 鹿島出版会／**最新コンクリート工学** 岡田清編 国民科学社／**コンクリート構造物の耐久性シリーズ 塩害** 技報堂出版／**風化残積土の工学的性質** 西田一彦著 鹿島出版会／**FORTRANによる土木技術計算 1** R.J.コープ著 サイエンス社／**地質工学用語辞典** S.H.Somerville M.A.Paul著 オーム社／**コンクリート構造物の耐久性シリーズ** 岸谷孝一〔ほか〕編 技報堂／**補強土構造物の理論と実際** C.ジョーンズ著 鹿島出版会／**すぐに役立つ建設機械の安全対策** 鹿島建設労務安全部・機械部編 鹿島出版会／**道路構造令の解説と運用** 日本道路協会編 12版 日本道路協会／**東京の橋** 水辺の都市景観 伊東孝著 鹿島出版会／**河川工学** 室田明編著 技報堂／**建設省河川砂防技術基準（案）調査編** 日本河川協会編 建設省河川局監修 二訂 山海堂／**港湾工学** 白石直文〔ほか〕著 鹿島出版会／**都市は野生でよみがえる** ―花と緑の都市戦略― 吉村元男著 学芸出版／**大谷幸夫建築・都市論集** 大谷幸夫著 勁草書房／**先進諸国における都市計画手法の考察** 日笠端著 共立出版／**生き残る街づくり** ―都市・商店街・再開発― 藤田邦昭著 京都 学芸出版社／**東京のまちづくり** ―近代都市はどうつくられたか― 藤森照信 小澤尚著 彰国社／**アーバンデザイン** ―軌跡と実践手法― アーバンデザイン研究体編著 彰国社／**アール・ヌーヴォーの館** 旧松本健次郎邸 増田彰久写真 藤森照信，小泉和子文 杉浦康平構成 三省堂／**ゆらぐ住まいの原型** ―自然発生的建築を探る― 本多友常著 京都 学芸出版社／**建築の背景** ―熊本週記― 木島安史著 京都 学芸出版社／**建築を語る** 大阪建築設計監理協会編 大阪 学芸出版社／**詩としての建築** 瀬尾文彰著 現代企画室／**フランク・ロイド・ライト** ―建築家への手紙― F.L.ライト著 丸善／**江戸** 失われた都市空間を読む 玉井哲雄著 平凡社／**つくられた桂離宮神話** 井上章一著 弘文堂／**建築探偵の冒険 東京篇** 藤森照信著 筑摩書房／**S建築構造設計** ―実例と解説― 構造家懇談会編 オーム社／**これだけは知っておきたいパースの基本と応用** 高山英一〔ほか〕著 鹿島出版会／**建築基準法の実際** ―基本問題40講― 矢吹茂郎著 京都 学芸出版社／**分り易く図で学ぶ建築製図** 江上外人〔ほか〕著 共立出版／**時計塔** ―都市の時を刻む― 横山正編 鹿島出版／**住まいづくり・男の注文100章** 樹沢成明著 鹿島出版会／**都市型住宅の文化史** ―石の文化と木の文化― 後藤久著 日本放送出版協会／**建康のための住まいづくり** ―医者と建築家によるあなたへの助言― 石福昭〔ほか〕著 彰国社／**住まいの人間工学** 宇野英隆著 鹿島出版会／**都市住居の空間構成** ―住居における空間連結手法の研究― 東孝光著 鹿島出版会／**パソコンによる空気調和計算法** 宇田川光弘著 オーム社／**快適住まいをつくる空調の話** ――室暖冷房からセントラル方式までのノウハウ― 長谷川清衛著 彰国社／**ニコンの技術者集団** 日本光学の完全主義発想 現代情報工学研究会著 ダイヤモンド社／**わかりやすい溶接の設計と施工** 日本鋼構造協会編 技報堂／**PC-9801による建築構造設計のためのBASIC** 宮澤健二著 井上書院／**はじめて使うMultiplan** 繁野鎮雄著 技術評論社／**はじめて使うN88BASICコンパイラ** 河西朝雄著 技術評論社

新着図書(選)－法律

芦田均日記　6，7　芦田均著　岩波／**実録侵略戦争と新聞**　塚本三夫著　新日本出版社／**ユートピアと権力　上,下**　升味準之輔著　東京大学出版会／**政治学概論**　山川雄巳著　有斐閣／**現代中国の外交**　―政策決定の構造とプロセス―　A.D.バーネット著　教育社／**インドネシア政治動揺の構図**　―ポスト・スハルトへの展望―　尾村敬二著／**保守化と政治的意味空間**　―日本とアメリカを考える―　佐々木毅著／**オーストラリア政治入門**　D.ジェンシュ著　慶應通信／**現代福祉国家の理論**　小谷義次著　ミネルバァ書房／**天皇制を問う**　―総特集―　文化評論編集部編　新日本出版社／**投票行動と政治意識**　堀江湛，梅村光弘編　慶應通信／**日本の内閣　3**　白鳥令編　新評論／**行政改革と現代政治**　新藤宗幸著　岩波書店／**公務員法**　質問と解説で学ぶ　田中舘照橘著　有斐閣／**国際紛争の読み方**　J.F.ダニガン，A.ベイ著　河出書房新社／**アメリカの罠**　トップたちの対日戦略　日高義樹著　講談社／**核の時代を読む**　日常生活の視点から　剣持一巳著　平凡社／**戦争論と現代**　核爆弾の政治経済学　M.カルドー著　社会思想社／**原爆裁判**　核兵器廃絶と被爆者援護の法理　松井康浩著　新日本出版社／**判例とその読み方**　中野次雄編　有斐閣／**法と経済学入門**　J.M.オリバー著　同文舘出版／**憲法秩序の理論**　小林直樹著　東京大学出版会／**ゼミナール憲法判例**　上田勝美編　法律文化社／／**憲法**　―体系と争点―　榎原猛著　法律文化社／**現代憲法講義**　上野裕久編　法律文化社／**日本国憲法　―資料と判例―　1，2**　現代憲法研究会編　法律文化社／**行政法閑談**　広岡隆著　ミネルヴァ／**法治国理念と官僚制**　宮崎良夫著　東京大学出版会／**口述民法総則**　石田喜久夫著　成文堂／**法人法入門**　森泉章著　有斐閣／**物権法**　田中整爾編　法律文化社／**不動産取引**　―取引の安全に役立つ法律知識―　不動産法研究会編　第7版　有斐閣／**民法総則**　林良平編　青林書院／**金融担保法講座4**　質権・留置権・先取特権・保証　米倉明〔ほか〕編　筑摩書房／**会社法はどう変わるか**　商法・有限会社法改正試案の要点　商事法務研究会／**債権総論**　遠藤浩，水本浩編　青林書院／**債権各論**　水本浩，遠藤浩編　青林書院／**現代株式会社法**　並木俊守著　中央経済社／**注釈会社法　5**　株式会社の機関　1　上柳克郎〔ほか〕編　有斐閣／**会社のつくり方**　段取りと手続きのすべて　大石晃一，長門昇著　日本実業出版社／**監査役の責任事例**　商事法務研究会／**会社役員の説明義務**　末永敏和著　成文堂／**手形小切手法**　菱田政宏著　中央経済社／**宮本英脩著作集　5**　刑事訴訟法大綱　宮本英脩著　成文堂／**刑法講義総論　中**　内藤謙著　有斐閣／**刑法講義総論**　大谷實著　成文堂／**刑法改正と保安処分**　中山研一著　成文堂／**注解民事手続法　3**　注解民事調停法　石川明，梶村太市編　青林書院／**裁判実務大系　7**　民事執行訴訟法　大石忠生〔ほか〕編　青林書院／**注解民事手続法　8**　注解非訟事件手続法　伊東乾，三井哲夫編　青林書院／**刑事訴訟法の史的構造**　小田中聰樹著　有斐閣／**少年法**　―条文解説―　田宮裕編　有斐閣／**最高裁全裁判官**　―人と判決―　野村二郎著　三省堂／**現代企業活動法(企業法3)**　中村一彦編　同文館出版／**経済法の史的考察**　金沢良雄著　有斐閣／**経済法概説**　松下満雄著　東京大学出版会／**国際売買契約ハンドブック**　田中信幸〔ほか〕編　有斐閣／**現代国際私法　上**　石黒一憲著　東大出版会／**医療の法律紛争**　―医師と患者の信頼回復のために―　田中実，藤井輝久著　有斐閣／**家族？**　スタジオ・アヌー編　晶文社／**親子同居・上手な住い方**　二世帯住宅研究所編　文化出版局／**少年非行の研究**　森武夫著　一粒社／**非行**　―悪に魅せられる少年少女―　新田健一著　金子書房／**日本の若者**　その意識と行動　ＮＨＫ日本放送協会世論調査部編　日本放送出版協会

古典の窓
特集

私の図書館史研究散歩（第5回）

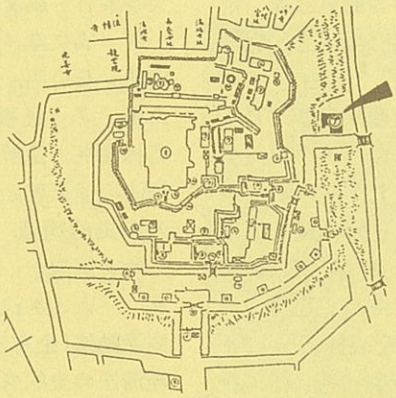
徽典館万巻楼文庫

和泉田　正　宏

北海道の最南端に位置し，北海道文化の発祥地である松前は，松前城をはじめとして豊富な史跡と伝説で知られ，また北海道では松前だけに群生している約2,000本の孟宗竹林と250種約7,000本におよぶ桜の名所として，私たちになじみ深い町である。

松前は鎌倉時代にはすでに本州人が移住しており，長禄元年（1457）に松前家の祖・武田信廣がコシヤマインの乱を平定してからは歴代の藩主が城郭を整備し，多くの神社・寺院も建立された。近江商人が定住し，京都との文化交流も盛んとなり，松前は北海道の政治・文化の中心地として栄えていった。そして北海道で最初の図書館がこの最北の城下町・松前に誕生する。

本稿の主人公である第16代松前藩主昌廣（1827．8．27—1853．8．8）は3歳にして句読を受け，8歳では経書の大義に通じ，長ずるにおよんで学問を好み，詩文を能くした。天保10年(1839)，15歳で家督を継いだ昌廣は自ら江戸の儒者尾藤藤助を師とするとともに，つねに子弟の文武教養を怠らず，多くの藩士を藩費で江戸に派遣して勉学させるなど，率先して藩学の振興に意を尽した。



安政元年完成の城郭と徽典館

天保11年（1840）には，江戸浅草新寺町の藩邸内に藩校である明倫館を創立して在府の藩士を教育し，さらに弘化4年（1847）には，第14代藩主章廣が文政5年（1822）に福山城（松前城）三の丸馬坂下に創建した徽典館（きてんかん・松前藩としては最初の藩校）に文庫を設け，藩士の利用に供して学問の向上に貢献したのである。昌廣はこの文庫を万巻楼と称した。

この徽典館万巻楼文庫は「日本書紀」「大日本史」「日本外志」「古事記」など約1,500巻余から構成されたといわれる。明治時代になって松前教育会，松城小学校の所蔵をへて，昭和20年には松前町役場に保管されていたが，昭和24年6月5日，町役場が火災に見舞われた際に類焼したため，今日では詳細な蔵書内容をうかがい知ることはできない。

明治以降の北海道における図書館現象は，わが国図書館史とその軌跡を同じくし，個人所蔵文庫の公開，新聞縦覧所，教育会図書館，学校図書館，組合図書館，公立図書館などに大別することができるが，徽典館万巻楼文庫は北海道における最古の図書館であると同時に，学校図書館としても先駆的役割をはたしたと評価することができる。

昭和56年8月22日，私は15年ぶりに松前を訪ねた。翌日，ホテルでの朝食をあわただしくすませ，小雨のなかを徽典館ゆかりの場所へ急いだ。しかし，どうしたことだろう。かたときも私の脳裡を離れなかった，あの「徽典館跡」と記された高さ150cmの史跡指示柱は今はなく，そこには一軒の民家が建っているだけで，事情を知らぬ家人も私の質問にただ困惑するだけであった。

ある種の虚脱感に襲われた私はホテルにもどり，あらためてロビーのガラス・ケースに展示されている「第16代藩主昌廣公着用甲鎧」（ただし真偽のほどは不明）をくい入るように見なおし，「容顔秀麗」と伝えられる昌廣の面影を重ね合わせ，130余年前の松前に思いを馳せることができたのがせめてもの救いであった。

（いずみだ・まさひろ　本学事務部長）

開館時間

本館
9：30～20：00（月～金）
9：30～18：00（土）

工学部分室
9：30～17：00（月～金）
9：30～13：00（土）

日曜祝日，創立記念日は休館いたします。

北海学園大学附属図書館報　図書館だより
Vol. 9 No. 1　（通巻 101号）

本館　〒062 札幌市豊平区旭町4丁目1番40号
(011) 841-1161 内線 270～275・279
工学部分室　〒064 札幌市中央区南26条西11丁目
(011) 561-2911 内線 64